

報告3 リンデパルケン知的障害児職業高校

社会性、自信、自立を目標に

スウェーデン・ストックホルム市は 14 の島で構成されている。公園や緑地帯は 30%。水と緑が美しい。

その「南の島」は労働者が多く住むところだった。そこにつくられた「森の教会墓地」の石積みは失業対策事業でもあったそうだ。

総選挙事情を見てみようと 1998 年に訪ねた投票所も「南の島」にあった。社会民主党の幹部が陰湿とは無縁の明るく楽しそうな選挙活動を熱弁してくれた。工場は郊外に移転し、その跡に計画的につくられた若者に人気の「エコ住宅」も、重度障害者のアクティビティセンターもこのエリアにある。そして、今、多くの移民が住んでいるという。

私たちは、2008 年に一度訪問したことがある知的障害児が学ぶ特別学校＝リンデパルケン高校 (Lindeparkens gymnasiesarskole) を再訪した。以前あった住宅地のエリアから、現在のシャルホルメン (Skarhomen) 駅の側の学校に移転していた。



校長のアン-ソフィー・ローゼンクヴィスト (Ms. Ann-Sofie Rosenqvist) さんが説明してくれる。

この学校は、①健康、②社会性、③商業、④芸術の 4 コースがあり、「基礎コース」もそれぞれの中にある。4 年間で 3600 時間の授業を提供する。113 人の生徒に 56 人の教職員がいる。

国立の肢体不自由児の特別高校は以前からこの敷地にあり、その後、ストックホルム市立のリンデパルケン高校が国立高校を統合して、知的障害児のリンデパルケン高校のなかに、肢体不自由児の国立特別学校があるという関係なのだそうだ。

職業を持って自立することを目標にしている、現在 3、4 年生の 12 人は、それぞれ 22 週の実習中。国が持ち株 100% の有名なサムハラや店、プール、



高齢者住宅での介護、園芸など。職業斡旋所と提携して、職業訓練してくれる企業には 5000Skr (約 85000 円) / 月助成金がつく。レストランを営むダイアクティビティセンターなども対象だ。

それ以外の子らは、3 週間、作業所やダイアクティビティセンターを見学する。8 人 (内車いす利用の重度障害者 4 人) の生徒 (男子 7 人) たちが音楽の教員のもとに、ほぼマンツーマンでアシスタントがついて歓迎の歌を歌ってくれた教室を訪問したり、学校紹介の映像を見せてもらった。

*

「以前訪ねてからこの 7 年の間に障害は重度化している感じがする。自閉症の子も増えているようだ。そうしたなかでも職業を得ての自立を目標としているのか？」と校長に質問すると、彼女は、「そうなのよ、ホントに重度化してるのよ」” そんななかでも先生たちほんとうによくやってくれてるの” という感じで、「目標は変わらない。社会性、自信、自立を目標としています」「それぞれ差はあるけれど、職業を持ってがんばれる喜び、誇り。仲間と生きること」が大切だと熱く語ってくれた。

この高校は、「好きなこと」「やりたいこと」を大切にしながら、社会性や自尊心や自立心を育む実践にとりくんでいるんだろうと感じた。

(蘭部英夫)

